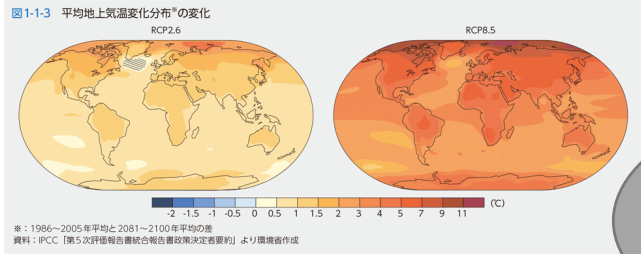


ローカルSDGsの可能性

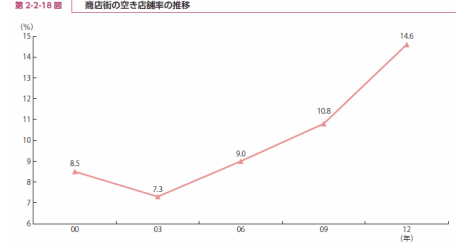


環境省中国四国地方環境事務所四国事務所
四国環境パートナーシップオフィス（四国EPO）

我が国が抱える環境・経済・社会の課題



平均地上気温変化分布の変化 (H29環境白書より)



商店街の空き店舗率の推移 (中企庁HPより)

経済の課題

- 地域経済の疲弊
- 新興国との国際競争
- AI、IoT等の技術革新への対応 など



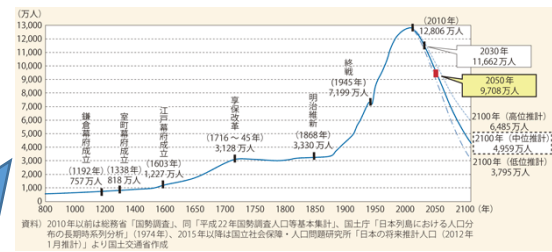
人工知能のイメージ (産総研HPより)

環境の課題

- 温室効果ガスの大幅排出削減
- 資源の有効利用
- 森林・里地里山の荒廃、野生鳥獣被害
- 生物多様性の保全 など



ニホンジカによる被害 (環境省HPより)

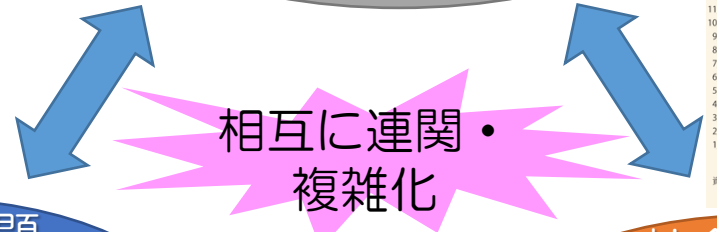


社会の課題

- 少子高齢化・人口減少
- 働き方改革
- 大規模災害への備え など



H29年7月九州北部豪雨 (国交省HPより)



**環境・経済・社会の
統合的向上が求められる!**

環境・経済・社会の統合的向上が不可欠



社会活動と経済活動は、自然資本を基盤に成り立っているもの

SDGsは環境・経済・社会に統合的に対応することを求めている。

→ **Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development**

地域循環共生圏とは・・・ローカルSDGs

各地域がその特性（課題・ニーズ）に応じ、**地域資源**を活かし、**自立・分散型の社会**を形成しつつ、近隣地域と補完し、支え合うことで創造。
環境・社会・経済の統合的課題解決により**脱炭素**と**SDGs**が実現した、魅力あふれる**地域社会像**。

■ 「地域循環共生圏」創造の重要なポイント

- ✓ ①地域課題とニーズを適確に捉え、②対応する地域資源を発見・活用し、③縦割りを超えた新たなパートナーシップを形成、地域連携を深化させ、④新たな価値を創造し、地域経済循環を向上させる
- ✓ 更に、「**テクノロジー×デザイン**」で課題を克服しつつ魅力を上げ、異分野との連携により「**単一的取組から多面的取組**（統合的課題解決）」に深化させていく



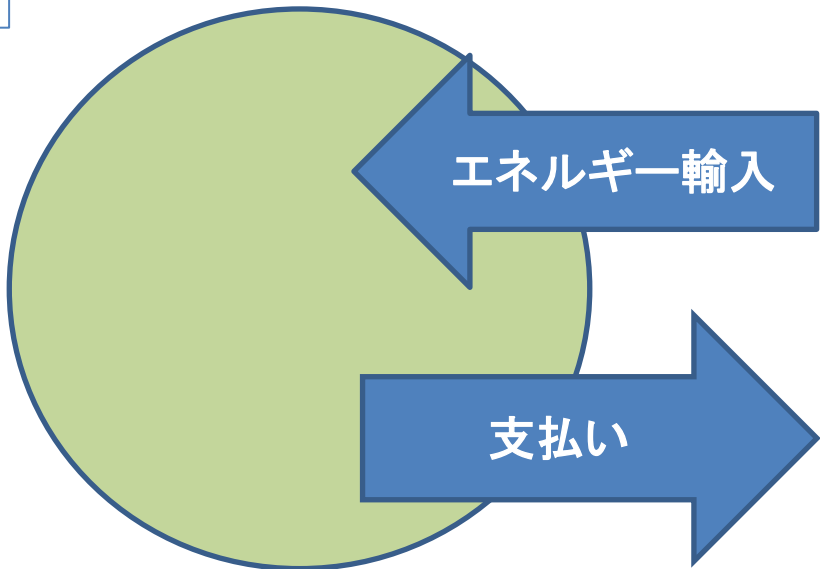
■地域循環共生圏は、ローカルビジネスの創出や、地域経済の活性化・経済循環拡大にも大きく貢献

■Society5.0も活用し更なる異分野連携や統合的課題解決を地域ビジネスベースで進められるよう環境省もプレーヤーとして最大限活動



(例) 地域の再生可能エネルギーの活用等による地域経済への効果

既存

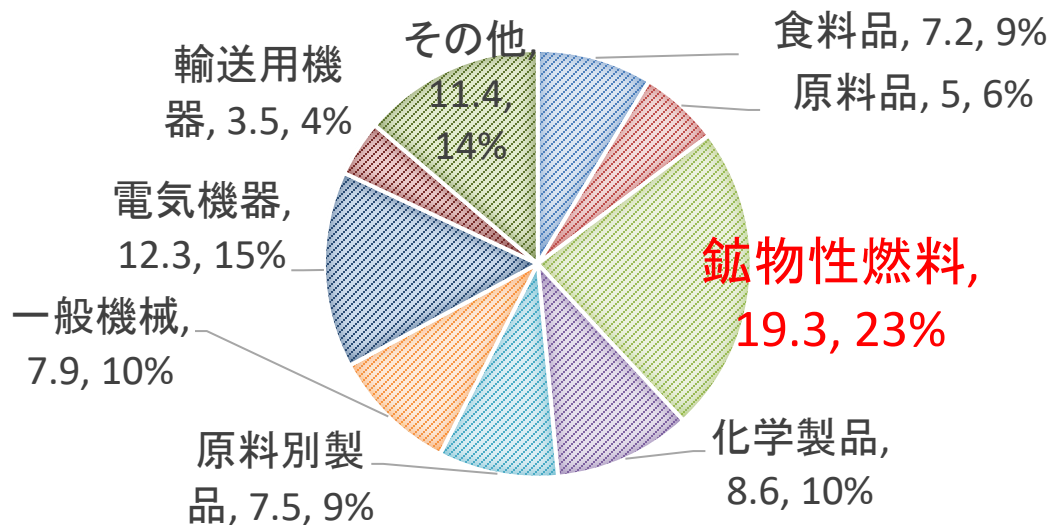


ローカルSDGsの考え方導入後



財務省貿易統計2018

(主要商品別輸入(兆円))



日本全体で約20兆円/年 = 5万人の自治体で約75億円/年

地域でお金が回る仕組み

ローカルSDGsの可能性

ローカルSDGsは、地域の構成員の新たなパートナーシップや、地域固有の資源を賢く使うことからスタート。地域での新たなビジネスや雇用の創出につながっていく。

「百年の森」による地域づくり (岡山県西粟倉村)

岡山県西粟倉村は、「**百年の森林構想**」を策定し、森林バイオマスの活用等を進め、年間の燃料経費約20%削減、域内留保約1,300万円を見込む。地域資源を活かした取組により、2008年以降**30社が起業**し、**人口の社会増**を達成。

集約化森林整備

温泉施設の薪ボイラー



資料：岡山県西粟倉村

コウノトリと共に生きる (兵庫県豊岡市)

2003年から農薬や化学肥料に頼らない「**コウノトリ育む農法**」による米栽培で農家の所得が増加。コウノトリと周辺観光を組み合わせた「**コウノトリツーリズム**」の観光客は3倍以上に増加。地域の愛着と誇りの醸成に寄与。

コウノトリと少年

コウノトリ育むお米

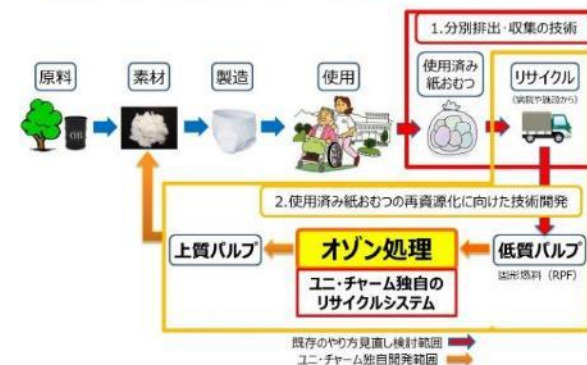


資料：兵庫県豊岡市

紙おむつリサイクル (鹿児島県志布志市ほか3市5町)

ユニ・チャーム、志布志市、そおりサイクルセンター（志布志市の事業者）が協定を締結。ユニ・チャームは、使用済紙おむつをおむつ用パルプに再資源化する技術を開発。2020年の本格事業化を目指し、使用済み紙おむつの最適な収集方法とリサイクル技術の確立に向けた実証試験を開始。

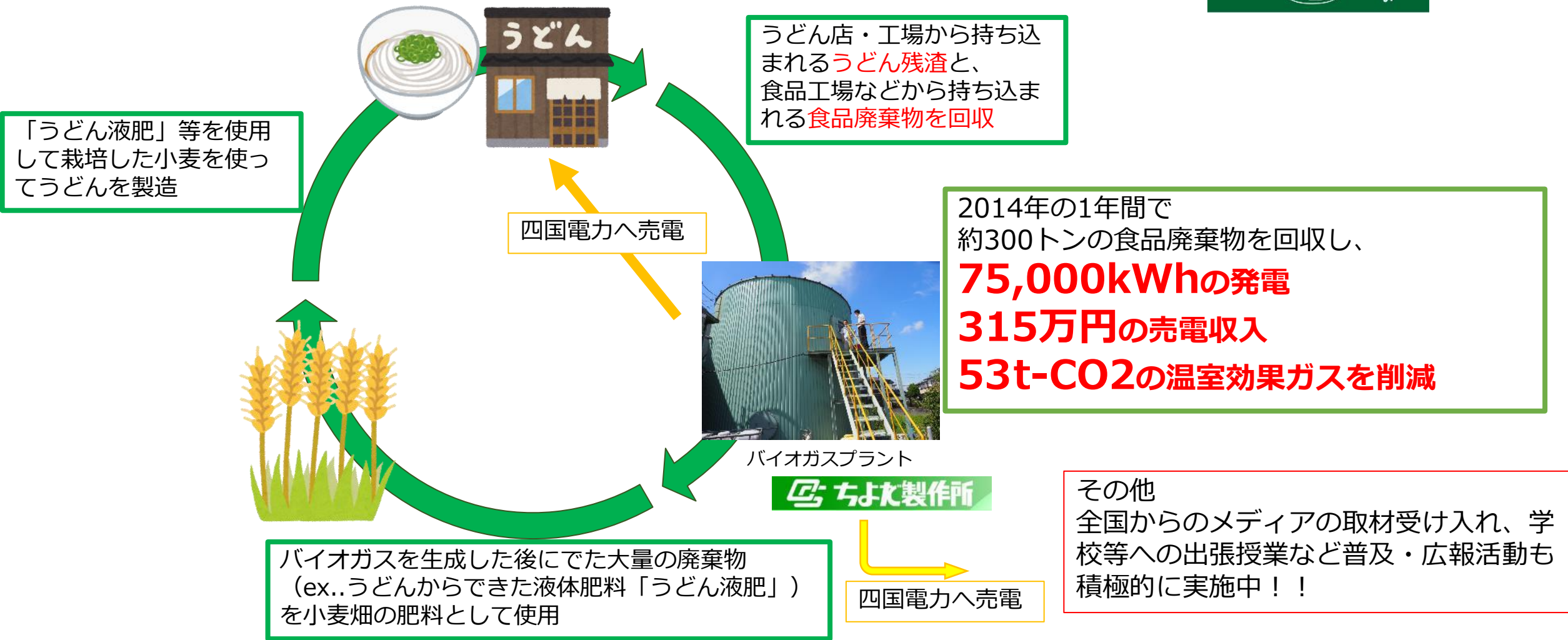
紙おむつのライフサイクルと技術開発





ローカルSDGsの考え方を取り入れた四国の成功事例

うどんまるごと循環コンソーシアム



「うどん液肥」等を使用して栽培した小麦を使ってうどんを製造

うどん店・工場から持ち込まれるうどん残渣と、食品工場などから持ち込まれる食品廃棄物を回収

四国電力へ売電

2014年の1年間で約300トンの食品廃棄物を回収し、
75,000kWhの発電
315万円の売電収入
53t-CO2の温室効果ガスを削減



バイオガスプラント



バイオガスを生成した後にでた大量の廃棄物 (ex..うどんからできた液体肥料「うどん液肥」) を小麦畑の肥料として使用

四国電力へ売電

その他
全国からのメディアの取材受け入れ、学校等への出張授業など普及・広報活動も積極的に実施中！！

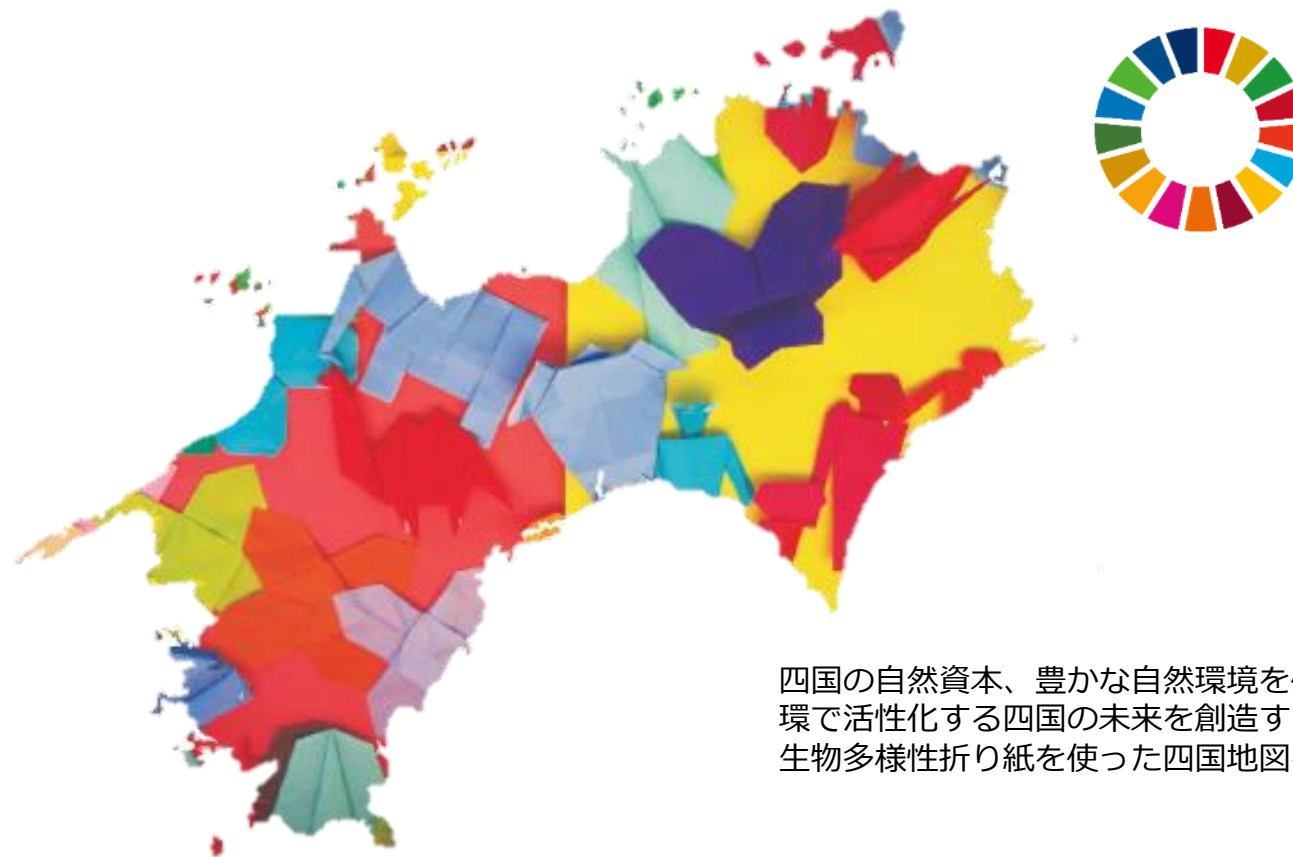


ローカルSDGsに取り組むメリット（企業向け）

- ✓ ローカルSDGsを通じて、
新たな販路や事業機会（ビジネスチャンス）が生まれる
 - ✓ ESG投資の観点で、
金融機関からの**新たな投資**を呼び込むことができる
 - ✓ 共通言語として、
ステークホルダーとの**コミュニケーションツール**として利用できる
- そのほか
- ✓ 世界共通の目標で自社のことを考え、従業員の**モチベーション向上**や**意識統一**にも繋がる
 - ✓ 学生などからの関心も高く、**採用**に繋がる可能性がある（**企業イメージの向上**）

四国の
「地域循環共生圏」を
創造する！

LS四国 (Local SDGs Shikoku) 概要版



四国の自然資本、豊かな自然環境を保全しながら、地域循環で活性化する四国の未来を創造することをイメージして、生物多様性折り紙を使った四国地図を使っています。

環境省中国四国地方環境事務所四国事務所
四国環境パートナーシップオフィス（四国EPO）



LS四国 設立趣旨（仮）

LS四国は四国地方の経済・社会の活性化（sustainabilityの実現）に直接貢献

●目的 ※LS四国規約目的の簡略版

産学官民金が密接に連携し、環境、経済、社会それぞれの課題の解決を図り、ローカルSDGsの達成に向けた魅力ある持続可能な四国をつくること

●主な活動

- 1 普及啓発・情報発信 ～活動の裾野拡大～
- 2 ネットワーク構築・情報交流・マッチング
～地域資源発掘・活用のエコシステムの構築、アイデアをプロジェクトへ～
- 3 資金調達、金融連携及び資源連結の支援 ～ESG地域金融の推進～

※ここでいう「資源」とは人材、技術、取組等を示す。

●設立時期

令和2年度中に立ち上げ、令和3年度より本格的に活動開始

●会員

本会の趣旨に賛同する産学官民金の団体及び個人



LS四国 準備段階これまでの取組①

2019年



2月（徳島県、約30名）
地域の特徴を活かした持続可能な商品開発
に向けたワークショップ



4月（四国4県）
事業開始準備：4県の協働団体との
協働体制の確立に向けた事前説明



LS四国 準備段階これまでの取組②



2019年



5～7月情報収集、ヒアリング
(四国4県20カ所)

協働団体との打ち合わせにより20カ所のヒアリング先を選定、訪問による情報収集

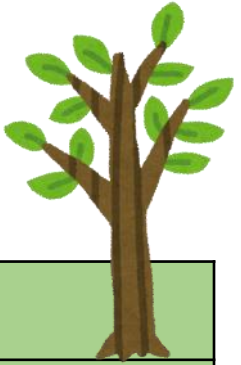


8月(香川県、約80名)

第1回四国地域ブロック会議設立準備会議
(ESG金融高松キャラバンとの連携開催)



LS四国 準備段階これまでの取組③



2019年



11月（高知県、約30名）

持続可能な商品開発のための研修

ものづくり、ことづくりに焦点をあてた関係者共有の場づくり、SDGs実施指針パブリックコメント勉強会同時開催



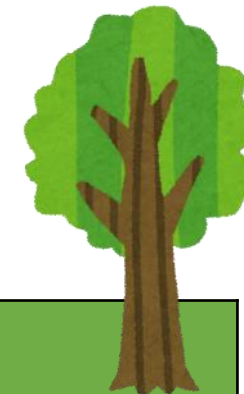
12月（愛媛県、約100名）

地域循環共生圏構築にむけた地域フォーラム

脱炭素化・SDGs構想との連関による地域循環共生圏全体構想の共有、愛媛県中小企業家同友会共催、四国内同友会の後援他、経済界との連携



LS四国 準備段階これまでの取組④



2020年



1月（徳島県、約30名）
第2回四国地域ブロック会議設立準備会議
四国財務局の広報支援
阿波銀行SDGs私募債等取組紹介



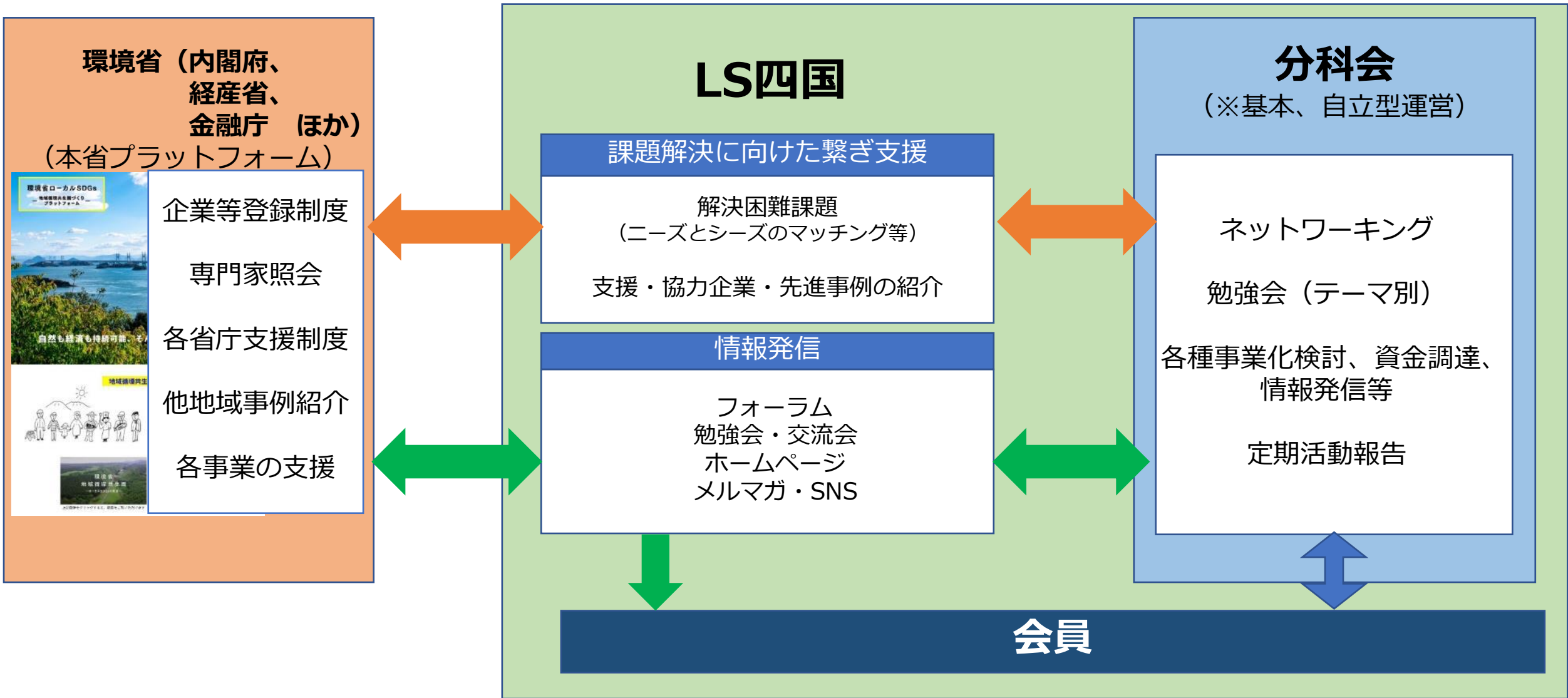
2月（愛媛県、約50名）
SDGsフェス in 西条
森里川海・流域連携ミーティング

準備段階→設立へ



本格始動！

LS四国 組織・機能（仮）



LS四国は、SDGsを切り口とした課題解決のための繋ぎ・情報提供を支援

LS四国 構成① (仮)

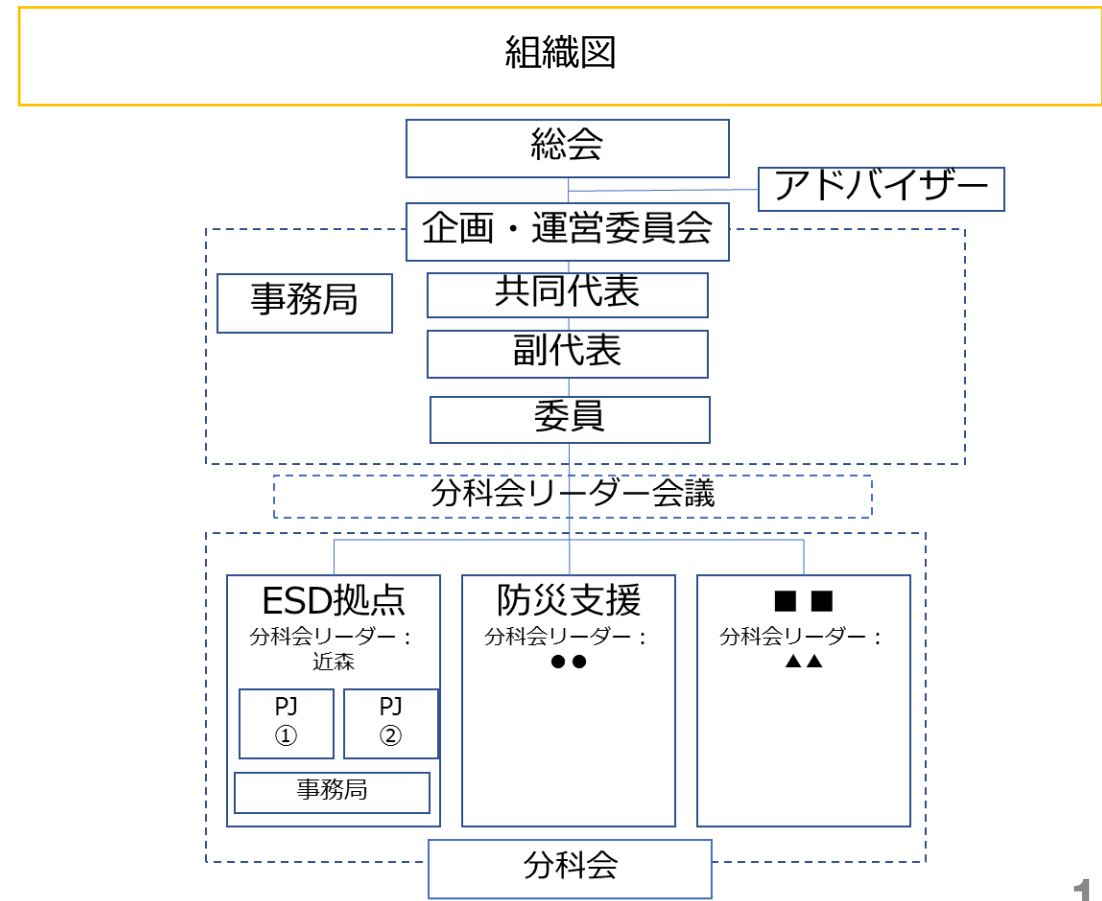
LS四国は、趣旨に賛同する産・学・官・民・金の団体及び個人の会員で構成

- ・ LS四国の方針を決定する「総会」
- ・ LS四国の運営を担う「企画・運営委員会」
- ・ 具体的なプロジェクトを実施する「分科会」
- ・ 事務の処理を行う「事務局」を設置

「アドバイザー」は、企画・運営委員会及び分科会等の運営や事業全般に当たって助言を行う。

企画・運営委員会の運営体制

共同代表	村田 武 (株)愛媛地域総合研究所代表取締役、九州大学名誉教授博士 (経済学・農学) 酒向 貴子 (環境省中国四国地方環境事務所四国事務所長)
副代表	島田 治男 (香川県中小企業家同友会 副代表理事) 四国内の産学官民金から1名 (調整中)
委員	谷川 徹 (四国生物多様性ネットワーク事務局) 金融機関 (調整中) 産学官民 (調整中) 分科会委員
事務局	環境省中四国地方環境事務所四国事務所 四国環境パートナーシップオフィス



LS四国 構成② (アドバイザーについて) (仮)

アドバイザーの役割

- ・ 企画・運営委員会及び分科会等の運営や事業全般に当たって助言を行う。
(ex. パートナー発掘・マッチング、情報提供、課題解決に向けたアドバイス)

想定されるアドバイザー

- ・ 環境・経済・社会等の分野から学識経験者、企業、金融、民間団体、行政等のスペシャリスト

※上記のアドバイザー以外で、各分科会等が希望する方がいる場合は、LS四国がその方との繋ぎをサポート



LS四国 組織・機能（年間スキームのイメージ（仮））



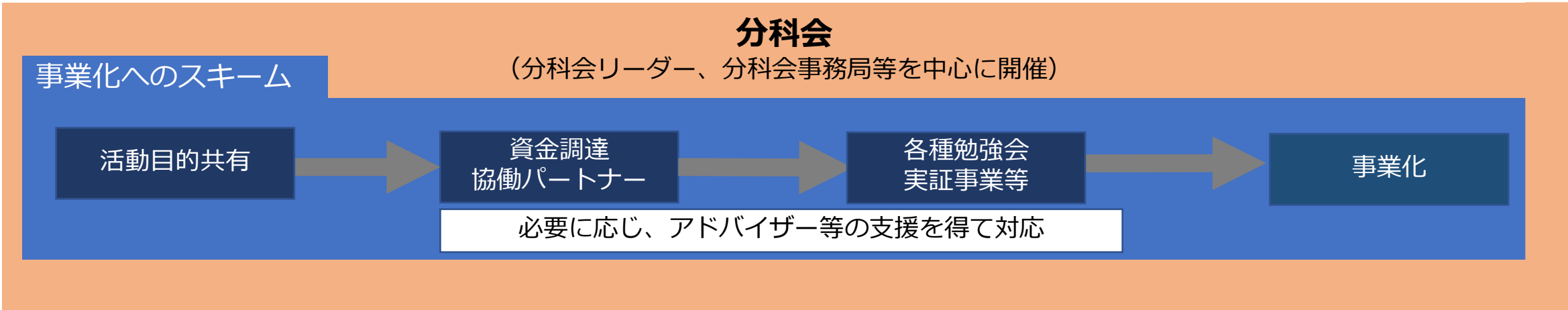
適宜、フォーラム、勉強会・交流会等を開催

企画・運営委員会
 ※年に数回開催予定。また、必要に応じて報告会（定例会）を開催予定

総会



※立ち上げ、改廃のタイミングは、年内どのタイミングでも良い



①勉強会・交流会等への参加

- ・ 成功事例を紹介
- ・ SDGs経営専門家による講演
- ・ ネットワーキング

②多様なネットワークを活用した情報収集、発信

- ・ 官公庁等のネットワークを利用したSDGsに関する情報の獲得
- ・ 会員団体の取組を四国内外に発信

③資金調達及び金融連携の支援

- ・ ESG地域金融の推進
- ・ 官公庁や支援団体からの助成制度等の紹介

④SDGs経営の支援

- ・ 各分科会等が抱えている課題等について、**アドバイザー**が解決策を一緒に考え、支援

⑤パートナーの発掘・マッチング

- ・ LS四国を通じ、協業・協働に向けたパートナーの発掘・マッチング

⑥表彰制度の創設

- ・ 地域課題解決に貢献した主体（企業、団体）を表彰



LS四国 会員登録メリット (仮)

参加
情報収集

各団体等への
伴走型支援

新規事業開拓等
(分科会立ち上げ等)

参加 情報収集	各団体等への 伴走型支援	新規事業開拓等 (分科会立ち上げ等)
	①勉強会・交流会等への参加	
②多様なネットワークを活用した情報収集、発信		
	③資金調達及び金融連携の支援	
	④SDGs経営の支援	
		⑤パートナーの発掘・マッチング
	⑥表彰制度の創設	

※上記の表の番号は7ページの①～⑥に対応

ニーズに合わせた支援・対応